

## 看護学部の目的等

### ●看護学部の目的

群馬県の県民をはじめ、様々な地域に生活する多様な人々の生涯にわたる健康水準の維持向上に貢献する方法を学ぶことを通して、人間と環境への興味関心を深め、豊かな人間性を培うとともに、科学的根拠に裏付けられた専門的知識・技術並びに高い倫理的判断力に加え、看護専門職者としての自律的発達や看護学を探究できる基盤を身につけ、将来的には国内のみならず国際的にも普及する新たな看護実践の創造開発に携わることを目指す、社会貢献への使命感と意欲をもつ人材の育成を目的とする。

### ●看護学部の教育目的

本学の存在する群馬県の県民をはじめ、様々な地域に生活する多様な人々の生涯にわたる健康水準の維持、向上に貢献する方法を学ぶ。この過程を通して豊かな人間性を培い、変動する社会の中で個々の役割を担いながら、自然と共生し独自の文化を育み生活する人間に対する理解と関心を深める。

また、科学的根拠に裏付けられた専門的知識・技術並びに高い倫理的判断力を身につけ、常に対象の人間としての尊厳を維持しながら、より質の高い看護を提供する保健医療専門職としての基盤を築く。

### ●看護学部の教育目標

ア 群馬県内をはじめ、様々な地域における保健医療チームの一員として専門性を発揮し、責務を全うするため、次の基礎的能力を育成する。

(ア) 対象の個別性に応じて看護技術を提供する能力

(イ) あらゆる職域において発揮可能な初歩的管理能力

(ウ) 対象の様々な健康状態に精通し、常にその維持増進を図る能力

(エ) あらゆる職域において心理・教育的支援を提供する能力

(オ) 対象の健康状態の正常・異常を査定する能力

イ 対象の人間としての尊厳を維持しながら、科学的根拠に基づく看護を展開するための基礎的能力を育成する。

ウ 人間の生涯とその生活及び健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示す人材を育成する。

エ 群馬県民をはじめ地域に生活する人々の健康維持・促進に対する強い使命感と高い倫理性を持つ人材を育成する。

オ 人種、民族、年齢、性別などの異なるあらゆる対象の福祉に貢献する看護職者としての責務を自覚し、行動する人材を育成する。

カ 科学及び学術の価値を確信し、研究成果を活用した看護に意義を見いだす人材を育成する。

キ 看護職者として自律的に発達し、将来的には、看護実践に採用可能な研究成果を産出し、看護における技術革新を促進するとともに、わが国の最高水準を満たし、群馬県のみならず国際的にも普及する新たな看護実践の創造開発に携わる人材を育成する。

## 看護学研究科の目的等

### ●看護学研究科の目的

様々な地域で生活する人々の生涯にわたる健康水準の維持及び向上への貢献に向けた科学的根拠に基づく看護の実践を究極の目的とし、革新され続ける看護学及び看護教育学の充実、発展及び次の革新に向けた研究を推進するとともに、これらの研究の成果を基にスタッフ・ディベロップメント（質の高い教育を展開できる看護職者の育成をいう。）及びファカルティ・ディベロップメント（質の高い教育研究を展開できる看護教員の育成をいう。）に向け継続的かつ自律的な学習を支援できる人材を育成する。

### ●看護学研究科博士前期課程の理念

対象の人間としての尊厳を保ちながら、高度に体系化された専門的知識・技術を基盤とした科学的根拠に基づく看護・教育を提供するための研究成果を産出するとともに、その成果に基づき自ら看護・教育を実践できる研究者あるいは看護学教員を育成する。また、時代の変化に対応し、革新され続ける看護学・看護教育学の充実・発展・革新に向けた研究を推進できる人材としての基盤を築く。さらに、様々な地域で生活する人々の生涯にわたる健康水準の維持・向上に向けた科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現を究極の目的とし、革新され続ける看護学・看護教育学の充実・発展及び次なる革新に向けた研究を推進し、研究成果に基づく質の高い教育を展開できる人材、看護職者のスタッフ・ディベロップメント（SD）、看護学教員のファカルティ・ディベロップメント（FD）を支援できる人材を育成する。

### ●看護学研究科博士前期課程の養成する人材像

本研究科の修了生は、以下の特性を最大限に発揮しながら、自らも看護職者としての発達を志向し、継続的・自律的に学習する。また、将来的には、我が国の最高水準を誇る看護学・

看護教育学の研究成果の産出と活用を実現し、看護職者の生涯に渡る職業的発達と人々の健康水準の維持・向上に貢献する。

本研究科（博士前期課程）の教育目標は、次の特性を備えた修了生の育成である。

- (1) 科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことができる人材の育成を行う。
- (2) 科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出できる人材の育成を行う。
- (3) 科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を政策に反映できる人材の育成を行う。
- (4) 高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開できる人材の育成を行う。
- (5) 成人学習者としての看護職者・看護学教員の特性を理解し、スタッフ・ディベロップメント（SD）、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を支援できる人材の育成を行う。

#### ●看護学研究科博士後期課程の理念

対象の人間としての尊厳を保ちながら、高度に体系化された専門的知識・技術を基盤とした科学的根拠に基づく看護・教育を提供するための研究成果を産出するとともに、その成果に基づき自ら看護・教育を実践できる看護職者を育成する。また、時代の変化に対応し、革新され続ける看護学・看護教育学の充実・発展・革新に向けた研究を自律的に推進できる人材としての基盤を築く。さらに、本研究科修士課程を通して修得した能力を基盤に、研究を自律的に継続し、自身が所属する組織や地域といった枠組みを超えて質の高い看護を提供するために、学術的基盤に基づく管理・教育・研究の視点から看護の機能を発展させることに貢献できる人材を育成する。加えて、看護の機能の発展に寄与する成果を世界に発信できる人材の育成を目指す。

#### ●看護学研究科博士後期課程の養成する人材像

本研究科博士後期課程の修了生は、以下の特性を最大限に発揮しながら、自らも看護職者としての発達を志向し、継続的・自律的に学習する。また、看護職者の生涯にわたる職業的発達と人々の健康水準の維持・向上を目ざして、研究成果を産出し、国内のみならず世界

にも発信し続ける。同時に、産出した研究成果を学士課程教育及び修士課程教育に還元し、看護学の教育・研究・実践が発展的に機能することに寄与する。

本研究科博士後期課程の教育目標は、次の特性を備えた修了生の育成である。

- (1) 保健医療サービスの充実に向け、多職種と協働して組織運営に参画し、管理的機能を発揮できる人材の育成を行う。
- (2) 高等教育としての看護学教育に精通し、高度な専門的知識・技術と教育指導力を駆使して質の高い教育を展開できる人材の育成を行う。
- (3) 臨床現場に存在する多様かつ複雑な問題の研究的解明とその成果の適用を通し、組織内の研究活動を推進できる人材の育成を行う。
- (4) 看護学を専攻する看護専門職として必要な高い倫理観と論理的思考力をもち、真理を探求し続けられる人材の育成を行う。
- (5) 革新され続ける看護学の充実・発展に向けた研究の推進に意義を見出ことができる人材の育成を行う。